

6.10 (日)
in中川コロナ
シネマワールド

ひつじ はがね もり 羊と鋼の森 公開記念

「とっておきの調律講座！」レポート

タイムスケジュール

13:15～講座準備開始

14:00～調律講座開始

〈調律師ってどんな仕事?〉

〈調律師の音の聞き方〉

〈整調と整音〉

14:20 講座終了・映画上映



↑丸山先生、河合先生と私達♪



↑中川コロナシネマワールド
マネージャー中村さんと♪

まず、舞台裏からスクリーンの前にピアノを運び込みます。河合先生がピアノを鳴らし、丸山先生が音の聞こえ具合を聞き、調整。館内は、絨毯に音が吸い込まれてしまうため、響かなくて苦戦していました。

調整が終わると、丸山先生はパワーポイントの確認、そして中村さんと進行の最終確認。その間、河合先生は黙々と調律。と、ここでなんと弦が断線するというハプニングが！しかし流石は河合先生。何事もなかったかのように落ち着いて調律を進めていました。

◎イベント開催に至った経緯

“この素晴らしい映画をお客さんに知ってもらいたい”という映画館の想いと
“演奏者を支える仕事である調律師に興味を持ってもらいたい”という
学校側の想いが合わさって、イベントが開催されることになりました。



↓上映前の打ち合わせのようす



今回のイベントは、丸山先生と河合先生が企画、実演をしてくださいました。2人は講座前「調律師という仕事を、そしてこの学校を、多くの方に知ってもらいたい!」と意気込んでいました。



開演10分前、いよいよお客さんの入場開始。館内には調律をする音が鳴り響きます。普段と違う館内の雰囲気、お客さんは興味津々。

ピアノの内部を見ることが初めての方も多く、楽しげでした。

14時になり、中村さんの挨拶で講座スタートです！

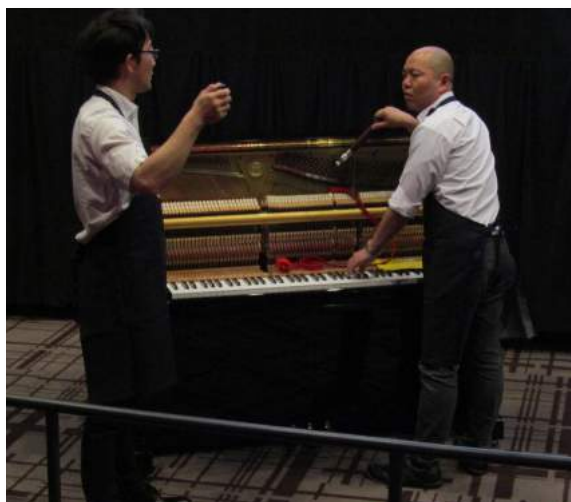
〈調律師ってどんな仕事？〉

ピアノが持つ力を最大限に引き出し、より良い音、弾きやすいタッチ作りをする仕事であり、他の楽器とは違い、演奏者自身が調整をすることができないので、調律師という仕事はなくてはならない存在だと仰っていました。



鍵盤は全部で88鍵。

1つの鍵盤につき、弦が3本のもの、2本のもの1本のものがあります。



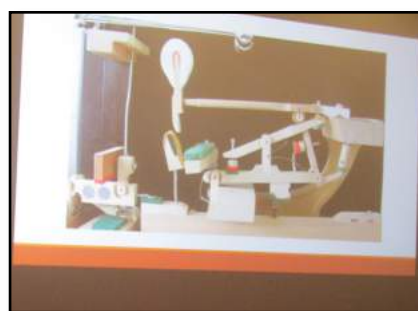
〈調律師の音の聞き方〉

音を狂わせ、「音が揺れている様に聞こえますか？」という問いかけにお客さんは頷いていました。先生が、「調律師は魔法の耳を持っているわけではありません！」といった意味がよくわかりました。

調律師は絶対音感が必要だと思われがちですが、唸りと呼ばれる、音と音がぶつかった時に起こる音の波を聞きながら調律をしています。基準の音を聞きながら、唸りをできるだけ無くしたり、意図的に唸りを作ったりします。これらは、訓練によってできるようになります。



↓ハンマーが動く仕組みをスクリーンで解説



〈整調と整音〉

ピアノは“羊毛フェルト”で出来たハンマーが弦を叩いて音を鳴らしています。長い間弾いていると、羊毛が硬くなり音色が狂ってしまいます。そのため、より良い音色にするため、ハンマーに針を刺してほぐしたり、ペーパーヤスリで形を整えたりします。



最後に、丸山先生は、「調律師というのは裏方の仕事です。演奏者の好みにあった調律ができないと、何度もやり直さないといけないため大変ですが、出来上がった時にはとてもやりがいを感じます。」と仰っていました。演奏者がいる限り、なくてはならない存在の調律師という仕事。今回取材をさせて頂いたことにより、私達も演奏者に喜んで頂ける調律ができるようになりたい、と強く思うきっかけとなりました。ご来場いただいたお客さんにもきっと、先生方の想いが伝わったことでしょう！今回のイベントを通して、また、この映画をきっかけに、調律師という仕事に興味を持つ人が増えるといいなと思いました。

